

2021年度スポーツ庁委託事業

Special プロジェクト 2020  
(特別支援学校等を活用した地域における障害者スポーツ  
の拠点づくり事業) 成果報告書

2022年3月  
山口県教育委員会

## 1 地域が有する課題の状況

本県では平成23年度に山口国体・全国障害者スポーツ大会を開催しており、この大会開催を契機に、各特別支援学校の部活動等を強化し、各学校の運動部活動の活性化や、選手の全国大会での入賞、また、日本代表として活躍する選手を輩出するなどの成果を得た。

この取組を一過性のものとさせないためにも、継続的な取組を可能とする体制の整備と有望な選手の発掘・育成、生涯にわたりスポーツに親しむ態度の育成のための環境の整備が引き続きの課題となっている。

このため、本事業を活用し、特別支援学校を核としたスポーツやレクリエーション活動の一層の充実を図り、心触れ合う機会を通じた障害や障害のある子どもたちへの理解の促進とともに、障害のある子どもたちが、生涯にわたりスポーツに親しみ、学校卒業後も心豊かに生活することができるよう、今年度も取組を進めてきた。

## 2 事業実施の目的、基本的事項

具体的な課題として、障害者が、学校や地域におけるスポーツ活動等に参加できる機会を増やすことや、身近な地域で継続的にスポーツ活動等を実施できる環境の整備が挙げられる。

そこで、これまでの各特別支援学校の特色に応じて取り組んでいるスポーツ活動等を、在校生だけでなく卒業生や地域の障害者の参加ができる地域スポーツクラブに発展させ、特別支援学校を拠点としたスポーツ活動等に継続的に参加できる環境を創出する取組を進めることとした。

具体的には、4校の特別支援学校を、生徒の実態に応じた競技種目に取り組む障害者地域スポーツのモデル校として指定し、障害者スポーツ指導員等の参画のもと、種目別検討委員会を開催するなど、モデル校における活動方針や取組内容、スケジュール等の計画立案、運営を行っている

## 3 事業実施体制

県教育委員会が主体となり、障害者スポーツ・レクリエーション推進協議会を開催し、各特別支援学校長を中心に、障害者スポーツ協会等の各関係団体の参画のもと、県の施策及び事業の円滑な推進に向けての協議を行った。

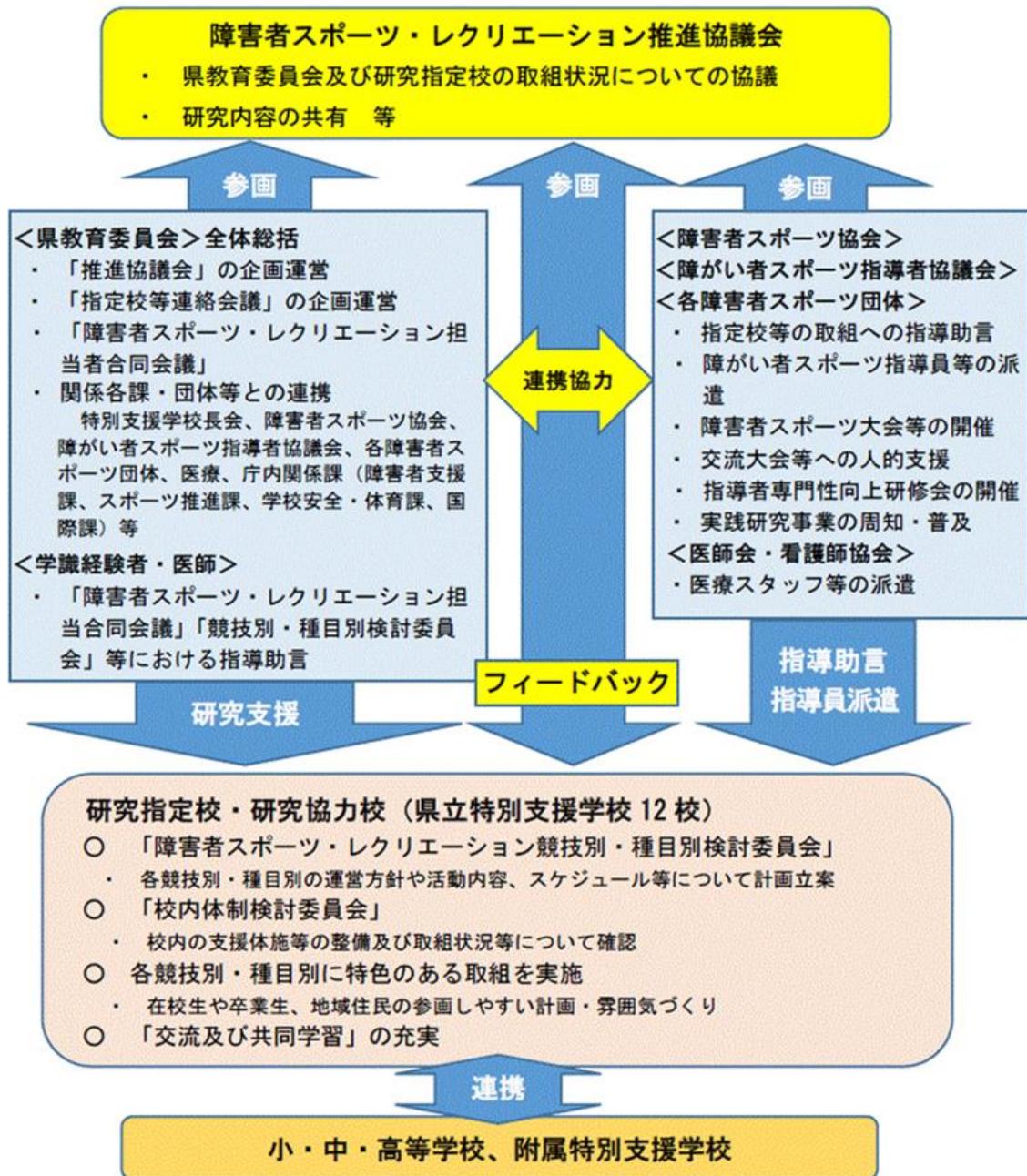
特別支援学校と関係団体等との連携により、各特別支援学校への障害者スポーツ指導員等の派遣や障害者スポーツイベントの開催など、学校を核としたスポーツやレクリエーション活動の一層の充実を図ることができた。

一方、新型コロナウイルス感染症による特別支援学校での教育活動への制限や地

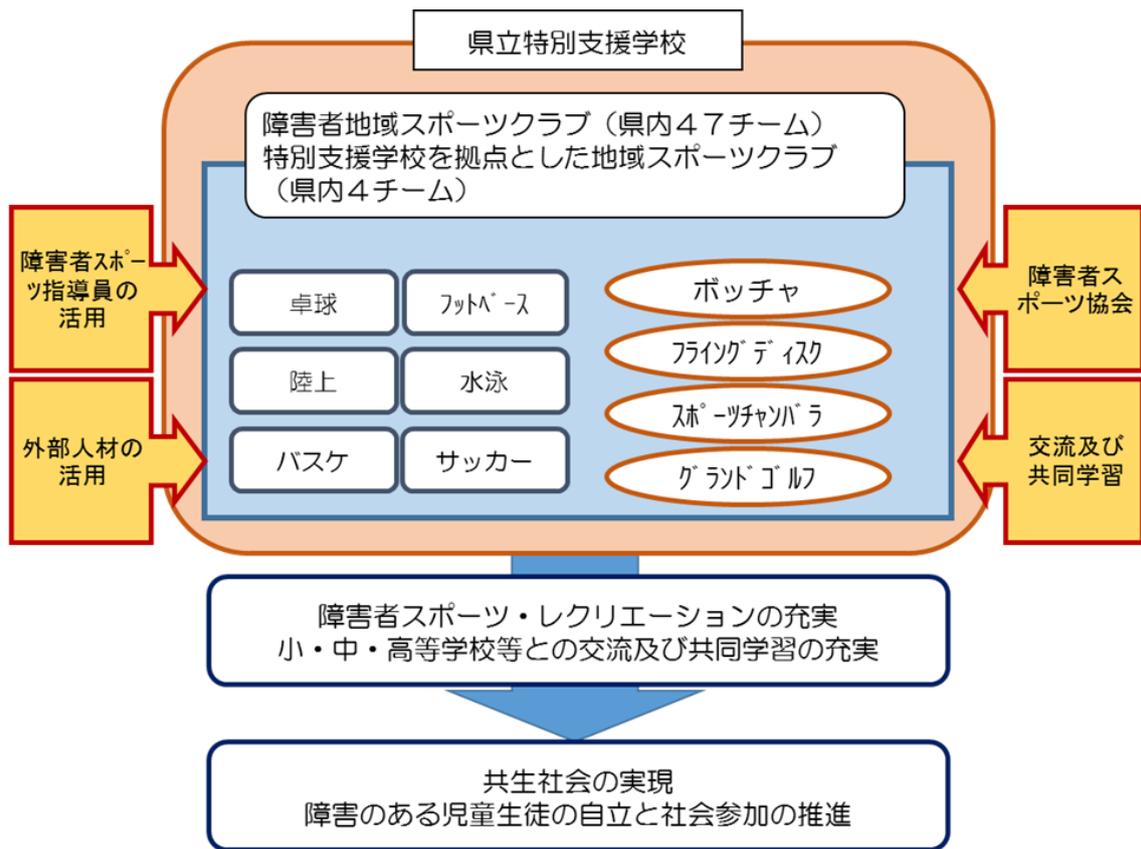
域障害者スポーツクラブの活動への影響により、計画通りに実施できないこともあったが、感染状況や感染症対策を講じながら、活動を継続する団体も増えてきた。

また、コロナ禍も踏まえ、さらなる安心安全なイベントや大会等を実施するため、公益社団法人山口県障害者スポーツ協会と連携し、今年度から看護師や理学療法士を派遣し、感染症対策への助言や当日の大会運営への参画も行った。

#### 4 事業の実施体制 【運営体制】



#### 【実施の概要】



#### 4 実施の日程（実績）

実施時期	実施事項				備考
	(1) 推進協議会	(2) 競技・種目別 検討委員会	(3) 障害者スポーツ 指導員等の派遣	(4) パラリンピアン等 との交流	
5月					採択前
6月	第1回推進協議会		障害者スポーツ指導員の 派遣 (バス・フットベース・ サッカー)	女子フットサル選手 との交流	
7月		フェスティバル実行委員会			
8月		種目別検討委員会	第3回山口県特別市支援 学校FIDバスケットボ ール交流会 (中止)		
9月					
10月					
11月			FIDバスケットボール大会 知的障害者球技大会		
12月					
1月		種目別検討委員会		パラリンピアンと の交流	
2月	第2回推進協議会				
3月					
実施時期	実施事項				備考

	(5) 障害者スポーツ教室	(6) 県内外大会への参加	(7) 交流及び共同学習の実施	(8) 先進県視察及び成果報告会参加	
5月					
6月					
7月					
8月	コロナ感染症拡大防止のため中止	コロナ感染症拡大防止のため中止	コロナ感染症拡大防止のため中止		
9月					
10月				コロナ感染症拡大防止のため中止	
11月	グランドソフトボール選手による障害者スポーツ教室	FIDバスケットボール大会 知的障害者球技大会	特別支援学校と小学校とのレクリエーション活動とおした交流及び共同学習		
12月	フライングディスク・ボッチャ協会による、障害者スポーツ教室				
1月	地元ラグビー協会によるラグビー教室	コロナ感染症拡大防止のため中止	コロナ感染症拡大防止のため中止		
2月				スポーツ庁成果報告会	
3月					

## 5 事業の概要

### (1) 障害者スポーツ・レクリエーション推進協議会推進協議会

各特別支援学校長を中心に、各関係団体の参画のもと、県の施策及び事業の円滑な推進に向けての協議を行った。

第2回協議会については、オンラインでの開催とし、各特別支援学校長を中心に、今年度の活動報告を行うとともに、今後、コロナ禍でも持続可能な取組について協議を行った。

### (2) 障害者スポーツ・レクリエーション競技・種目別検討委員会

各特別支援学校の特色に応じて取り組んでいるスポーツ活動について、障害者スポーツ指導員等の参画のもと検討委員会を開催し、活動方針や取組内容、スケジュール等の計画立案、運営等について確認を行った。

各競技・種目別検討委員会が実施する取組や交流大会等のイベントについては、中止となったものもあったが、県内の新型コロナウイルスの感染状況等を踏まえ、事務局と連携を図りながら、実施する上での感染症対策などの協議を行い、安全に実施することができた。

### (3) 各特別支援学校への障害者スポーツ指導員等の派遣

新型コロナウイルスの感染状況により、特別支援学校の教育活動への制限があったため、予定していた活動を全て実施することはできなかったが、地域の状況を踏まえ、安全に実施できる取組については、可能な限り実施することができた。実施できた取組においては、障害者スポーツ指導員等の参画により、部活動やレクリエーション等の指導内容の工夫・改善につながり、教員の指導や生徒の活動の幅が増えるなど、活動が充実してきている。

また、障害者スポーツ指導員による専門的な指導は、児童生徒にとって生涯スポーツへの意識を醸成する上で大変効果的であった。

#### 【FID バasketボール練習会・交流大会】



#### ○概要

県内の多くの特別支援学校で取組が進んでいるFIDバスケットボールについて、例年8月に実施している、特別支援学校の生徒や卒業生が参加する交流会は、本県の新型コロナウイルス感染防止集中取組対策期間と重なり急きょ中止となったが、11月は予定通り開催することができた。この交流大会には7校の特別支援学校の選手、卒業生が参加し、既に特別支援学校を拠点としたスポーツクラブを設立している学校のほか、チーム設立を検討している学校からも参加があるなど、各学校においてスポーツクラブ設立に向けた取組が進められている。

また、交流大会で県内選手が集まった機会をとらえ、障害者スポーツ指導員による練習会も併せて開催し、選手の競技力向上の取組を実施することができた。

### 【障害者スポーツをはじめとするスポーツ体験教室】



#### ○概要

障害者スポーツ指導員を特別支援学校に招聘し、グラウンドソフトボール、フライングディスク、ボッチャ、ラグビーなどのスポーツ体験教室を実施した。

児童生徒によっては、今まで経験したことのないスポーツもあり、実際に指導を受けながら体験し、各スポーツの楽しさを味わうことができた。また、障害者スポーツ指導員と学校との連携により、オンラインで体験教室を実施するなど、コロナ禍を契機として、より多くの障害児・者が、継続的に参加できる方策を模索する動きが出てきた。

## (4) 交流及び共同学習の実施

### 【近隣小学校とレクリエーション活動をとおした交流及び共同学習】



#### ○概要

県レクリエーション協会から講師を招聘し、特別支援学校と近隣小学校とのレクリエーション活動をとおした交流及び共同学習を実施した。

小学校の児童は障害のある児童生徒への配慮や介助等の方法を、特別支援学校の児童生徒は集団の中で周囲との接し方を体験的に学ぶことができた。

## (5) パラリンピアンとの交流

【東京パラリンピック2020

女子マラソン金メダリスト道下美里選手との交流】



### ○概要

パラリンピアンとの交流により、児童生徒たちはレベルの高いスポーツを肌で感じることができた。参加した生徒の感想の中には、「金メダルがとても重かった」「一緒に走って道下選手のスピードが速かった」「いろいろなことにチャレンジしている話を聞いて、自分も持久走をがんばろうと思った」など前向きな感想を聞くことができた。

また、この模様はニュースや新聞等でも取り上げられ、県民に向けた障害者スポーツの啓発の一助になった。

## 6 今後の展望等（成果と課題）

### (1) 成果

#### ア 障害者スポーツの着実な広がり

これまでの取組により、特別支援学校を核としたスポーツやレクリエーション活動の充実を図ってきた。事業の活用によって、学校におけるスポーツ活動も増えてきており、学校からは「児童生徒が様々なスポーツに触れる場面が多くなった」「楽しく活動する姿が見られるようになった」などの声を聞くことができた。障害者スポーツが着実にひろがり、生涯にわたりスポーツに親しむ態度の育成につながっていると考える。

#### イ 障害及び障害者理解の促進

特別支援学校の児童生徒と近隣小・中・高等学校の児童生徒との、スポーツを通じた交流及び共同学習の実施は、心触れ合う機会となり児童生徒の相互理解につながるとともに、地元自治会や学校運営協議会委員、保護者など様々な立場の方々の見学等は、地域住民のさらなる障害者理解にもつながったと考える。

## (2) 課題

### ア ウィズコロナの視点

国内での感染者発生から2年以上たった現在においても、学校での教育活動は制限されている状況である。特別支援学校を拠点としたこれまでの取組を継続していくためには、コロナ禍においても持続可能で安心・安全な取組を進めることが課題である。「今まで通りの取組ができない」ではなく、「こうすればできる」という視点で、ICT活用も含めた新たな工夫が必要である。

### イ これまでの取組の成果をさらなる発展につなげていく視点

国事業により、特に予算面では多大な支援を受けることができた。今後、同程度の取組は難しいものの、先進県の取組も参考にしながら、県予算の確保に努め、関係部署、関係団体と連携しながら県教育委員会として障害者スポーツをさらに推進し、障害のある児童生徒の自立と社会参加及び共生社会の実現に寄与していきたい。

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、山口県教育委員会が実施した2021年度「Specialプロジェクト2020(特別支援学校等を活用した地域における障害者スポーツの拠点づくり事業)」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。